

中林の獅子舞



中林の獅子舞は、10月中旬の春日神社の秋祭りに合わせて巡行します。獅子頭は、桐材漆塗の雌獅子で、明治23年（1890）金沢市の山本喜六の銘が刻まれています。

獅子殺しを主体とし、棒振りは、棒、薙刀、太刀、尺八、鎖鎌を用い、1人から3人で演舞します。武器を用いない無手の演目もあります。

明治初期に町田半兵衛の門下で水野一伝流を学んだ西村清太郎が中林に道場を開き、その棒術を、中林をはじめとした近郊の門下生に教伝しました。さらに柔術（無手）等の流派を取り入れ、今日の演舞の形態になったと伝えられています。

保持団体 中林獅子舞保存会
市指定無形民俗文化財
指定年月日 令和5年7月1日



獅子頭



春日神社（中林）